

現場管理クラウドシステム導入で生産性向上
素材生産からエネルギー関連事業まで
森林に軸足を置いた多角化事業を展開

播磨屋林業株式会社

■事業
現場管理クラウドシステムで情報共有と見える化による生産性向上■対象類型
ものづくり技術■導入機械装置
現場管理サポートシステム一式

経営理念 自利利他

兵庫出身の初代が炭焼きで創業
時代のニーズに呼応して事業多角化

日本の国土面積の約7割を占める森林。その豊かな資源を生かした燃料として、木炭は古くから生産され、炊事や暖房用に欠かせないアイテムだった。高度経済成長期に使い勝手の良い電気やガス、石油などの代替燃料に取って代われ、急激に需要が縮小。林業従事者減少の影響も大きく、荒廃している森林が少なくないのが現状だ。しかし近年、環境意識の高まりから再び森林が脚光を浴び始めている。播磨屋林業株式会社は、時代のニーズに対応した事業の多角化をいち早く推し進め、業界でも存在感を誇示している。

社名は、初代が現在の兵庫県から江津市に出てきたことに由来する。炭焼きを皮切りに、建築用材の切り出し、製紙用チップ材の製造、公共土木工事で発生した伐採材などの産業廃棄物処理、木質バイオマス燃料供給事業など、森林に軸足を置きながら柔軟な事業展開を進めてきた。山を歩いて木々を目利きできるベテラン社員の存在は、価値ある高品質の木材の買い取り・活用には不可欠であり、会社を支えてきた。

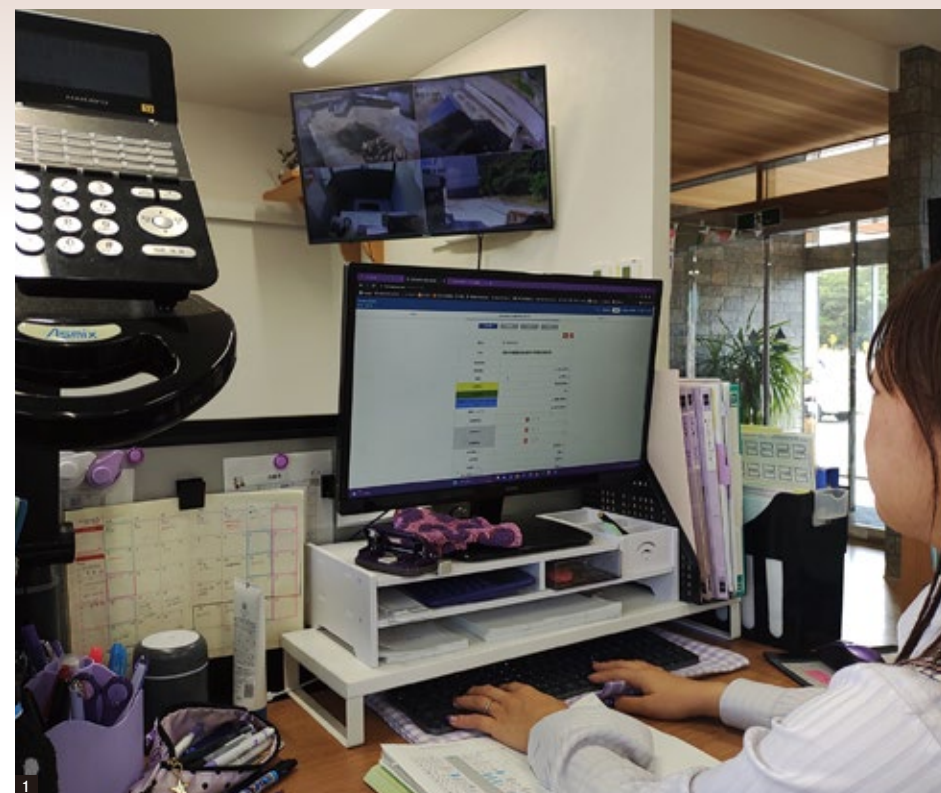
作業の効率性向上を狙い
クラウドシステム導入

伐採現場などとして出向く山々は、本社のある江津市内だけでなく、大田、浜田両市まで広がっており、移動に1時間以上かかることも。出社後打ち合わせを経て現場で作業し、再び帰社して作業日報や関係書類などに記述していると、実質的な作業時間が短くなり、効率的に作業を進められない状況が続いていた。

そこで出退勤や設備機械の使用状況、作業日報などを管理できるクラウドシステムを導入。システム会社にオーダーメイドでソフト開発を依頼し、同社のニーズに合致した内容に作り上げてもらった。社員は無料通信アプリを



代表取締役 尾前豊



- 1 現場管理システムで現状を確認する内勤の社員
- 2 現場では、各種高性能機械が大活躍
- 3 バイオマス発電用チップに加工される端材。奥に見えるのがチップヤード
- 4 高品質な建築材に伐採するには、高い技術が求められる

使って作業日報などの情報を入力。各工程の進捗状況なども現場で確認できる。原価計算システムも取り込んでいるため、作業方法や段取りなどによって生産コストが変わる点などが可視化され、社員のコスト意識醸成にもつながっている。

高性能林業機械を多数保有
営業エリア拡大や顧客満足度向上狙う

会社は通勤用の車両を新規でリースし、必要に応じて社員が直行直帰できる体制も整えた。寺本取締役は、「使い慣れているアプリで入力できるため、社員にスムーズに浸透し、作業効率性は著しく向上した」と話す。同社は、フェラーバンチャやハーベスタ、フォワーダなどの高性能林業機械を約30台保有。各種資格取得支援や空調服の支給、ハチ対策として自動注射器を各人に配布するなど労働環境向上にも力を入れており、近年は働きやすい職場を目指している。

システム導入により、生産性が向上し、天候などで生じた工事遅延への迅速な対応も可能になった。今後は培った技術力に加え、スピードやコストなども大きな競争力として営業エリアの拡大、顧客満足度向上を狙う。



Company Data

播磨屋林業株式会社



会社外観

代表者名：尾前 豊
設立年：1964(昭和39)年
資本金：20,000千円
従業員数：52名
主たる業種：木材・木製品製造業
本社：〒695-0003 江津市松川町下河戸180-2
電話：0855-52-7600
FAX：0855-52-7230
URL: <https://harimaya1953.jp/>